

## 俳句 大津俳句会

一山に別れを惜しみ残花散る

井芹真一郎

朝寝して心の疲れなくなりし

秋山 恵子

青空をなほ高くして揚雲雀

市原 初女

川露の立ちし正面山桜

江藤 みち

つぎつぎと庭に増えゆく諸葛菜

大塚喜久子

寄り添うて葺いてやりたる花御堂

坂本 セキ

唐突に耳のとらへし初蛙

佐賀 久子

春雷の素振りを見せてそれつきり

松尾 昭雅

雨音の消へて聞こゆる時鳥

渡邊佳代子

独り来て花に遊んでもらひけり

岡崎 浩子

花の下ふはりゆるりと太極拳

森山美穂子

## 俳句 つのはな句会

往還おうかんに中風の父いて 南無おぼろ

星永 丈夫

伸び代がみえて黄帽子進級す

田上 公代

終電の尾灯に春の憂さ潜む

木庭 杏子

タンポポの回廊問いの続くまで

上杉 波

強欲あざらしな海豹地球丸呑みす

矢嶋 道子

夢遙かたんぽぽふわり宇宙旅行

水野 春子

山間やまあいの村をそめゆく春りんどう

梅木トキエ

雨が降るたんぽぽの葉にある愁い

塚本 洋子

魂魄こんぱくをきれいに広げ蝶となる

柴田しのぶ

覆面の徒がぞろぞろと さくらかな

志賀 孝子

## 短歌 大津短歌会

満開の桜の下に広がれる

若き麦穂の空につんつん

坂本 杲子

そよ風の吹きて桜の花びらの

散りて無縁の墓を包めり

鞍 岳志

ああ今は何処の家を飾るのか

山路に美しきあの千両

渡邊佐代子

淋しさを買いたる如く花買いて

雨降る街を帰り来たりき

吉永 恵子

縁えにしあれ常に信者の問を聴き

心に染みる今は亡き姫

菅野 静

はるばると渡たり来たる鴨の群

身を癒すがに静かに泳ぐ

豊岡ミツル

今は亡き師の影を慕い野に立てば

静かに聞こゆる春風の音

小平 善行